

比較現代日本論講読 I / 現代日本論講読

「現代日本論論文講読」大学院生・3年生対象: 2014年度後期
<金4>授業観察室 (文学部・法学部合同研究棟 2F)

授業の概要 (予定)

授業の目的

- 論文の探しかたを習得する
- 論文の読みかたを習得する
- プレゼンテーションの方法を習得する (Microsoft Powerpoint を使用)
- 現代日本文化についての知識を深める

※「現代」というのは、およそ1970年以降のことと考えてください。

授業予定

1. イントロダクション (4/11)
2. 論文をさがす (4/18~25)
3. 論文の読みかた (5/9~16)
4. プレゼンテーション資料の作成方法 (5/23)
5. プレゼンテーションの実際 (5/30~6/6)
6. 各論文の報告 (6/13~7/18)

※ プレゼンテーションは録画し、それぞれの日の担当者2名で見て振り返る機会を持ちます (方式は受講者数による)。

成績評価について

- 授業中の課題 (30%)、報告 (40%)、質疑応答 (30%)によります。報告回数が2回に満たない場合には、代わりに課題を課す場合があります。

教科書

- 東北大学附属図書館 (2010) 『東北大学生のための情報探索の基礎知識 基本編 2010』。
- 東北大学附属図書館 (2007) 『東北大学生のための情報探索の基礎知識 人文社会科学編』。

※ 図書館ではすでに在庫切れで、入手困難です。印刷版が入手できない場合は、http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/supp/?cat_id=3 から、必要部分を閲覧してください。

参考書

- 佐藤望（編）（2012）『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』（第2版）慶應義塾大学出版会.
- 諏訪邦夫（1995）『発表の技法』（ブルーバックス）講談社.
- 藤沢晃治（1999）『「分かりやすい表現」の技術』（ブルーバックス）講談社.
- 木下是雄（1981）『理科系の作文技術』（中公新書）中央公論新社.
- 化学同人（1994）『若い研究者のための上手なプレゼンテーションのコツ』化学同人.
- 齊山弥生・沖田弓子（1996）『研究発表の方法』凡人社.

授業中に使うわけではありませんが、論文を読んだりプレゼンテーションをおこなう際の参考になるはずです。

各論文の報告

ひとつの論文について、つぎの4つの観点から報告をしてもらいます。

1. 鍵概念の抽出（scanning）
2. 構造の抽出（skimming）
3. 図表の解説
4. ロジックの抽出（結論とその根拠）

これらをひとりずつで分担して、計4人でひとつの論文を担当します

ひとりの報告は10分で、それに対する質疑の時間を20分とります。

1回の授業でふたりの報告をおこないます。つまり1本の論文を2回にわけて検討することになります。

報告者は、配布資料（ハンドアウト）と提示資料（PowerPoint ファイル）を用意してください。

- 配布資料は人数分のコピーを用意します（研究室のコピー機を使ってください）
- 提示資料は研究室ネットワークの授業用フォルダ内にあらかじめコピーしておいてください
- 10分におさまるように事前に練習をしておいてください

報告者以外の人、論文を事前に読んで、質問を考えてきてください。報告のあとの質疑のときに手を挙げて質問するのが原則です。

報告者以外から、録画と司会の役を割り当てます。

次回までの宿題

1. 教科書を読んでおくこと：
 - 基本編：2.3節（pp. 19-32）、3.1-3.4節（pp. 40-69）、4章（pp. 88-116）
 - 人文社会科学編：1章（pp. 2-12）、2.2.2-2.2.3節（pp. 27-41）
2. 自分が読みたい論文のテーマと、それをさがすのに必要なキーワードを考えておく

2014.4.11

比較現代日本論講読I

現代日本論論文講読

東北大学文学研究科

2014年度

田中 重人 (准教授)

論文は、各自の興味にあわせて
受講者が選んだものから

日本語2 + 英語2

=計4本の予定

録画しておいて、担当者2人で見直す
機会を途中でもちます

【目的】

- 論文の探しかた
- 論文の読みかた
- プレゼンテーション
- 現代日本文化の知識

【予定】

- イントロダクション
- 論文検索
- 資料作成
- 各論文の報告
(1本につき4人で2週間)

【成績評価】

- 課題 30%
- 報告 40% (2回できなかった人は別途課題)
- 質疑 30%

【教科書】

東北大学附属図書館『情報探索の基礎知識』

- 基本編
- 人文社会科学編

(品切 → オンライン版)

【参考書】

諏訪邦雄『発表の技法』ほか

【論文の探しかた】

- 人に聞く
- 入門書・概説書・展望論文
- ブラウジング
- 芋づる式
- 文献データベース

【論文の読みかた】

- Scanning: 鍵概念 (定義・用例)
- Skimming: 構造 (目次)
- 図表
- ロジック (結論ー根拠)

【プレゼンテーション】

学会発表型

- 提示資料 (パソコン、OHP、スライド)
情報をわかりやすく整理する
- 配布資料 (handout)
詳しい情報を示す
報告を聞かなくてもわかるように
論文としての体裁を整える

【質疑応答】

質疑応答の目的とは？

- ★ 報告前・報告中に質問・意見を考える
- ★ 質問が意見か
- ★ 内容が全員にわかるように

司会の役割

11

通常の審査手続き

- ★ 編集委員が審査員をえらぶ(ふつう複数)
- ★ 審査員にまわして判断を求める
- ★ 審査員が一致して「掲載可」ならそのまま掲載
- ★ 一致して「掲載不可」ならのせない
- ★ 意見が割れた場合は編集委員が判断
- ★ 「条件付」の場合は書き直して再提出・再審査

15

【投稿論文と依頼論文】

- 投稿論文……
通常の手続きで投稿・審査
- 依頼論文……
編集委員会の依頼で書く
(テーマのままの特集論文など)
審査のある場合とない場合がある

18

【雑誌論文の種類】

- ★ 雑誌の性質……
Peer Review 制の雑誌か？
- ★ 原著論文・研究ノート・調査報告…
- ★ 投稿論文と依頼論文

12

● Peer Review 制雑誌は権威が高い

- 「学術雑誌」の要件のひとつ
- ただし掲載まで時間がかかる。
独創的な論文は載りにくい

16

- この授業では、査読制 雑誌の
原著投稿論文を主対象とする
- 最初の2本は日本語論文、
あとは英語論文

19

【査読制度】

投稿された論文を雑誌にのせる基準：

- 新しい内容か？
 - 有用性はどの程度あるか？
 - 内容は正しいか？
- 専門家による審査 (peer review)

14

【原著論文その他】

- ★ 原著論文(ふつうの論文)
- ★ 研究ノート・調査報告など……
原著論文より質は落ちるが、
速報性を要求されるもの

17

宿題

- 教科書を読む
- テーマとキーワード

20